

第5回下丸子駅周辺地区のまちの将来を考える会

日 時：令和4年6月24日（金）18：00～20：00

場 所：矢口特別出張所 大会議室

参加者：16名（傍聴者：2名）

■議事概要

（1）これまでの振り返りと今回の取組内容

- ・事務局より第1回から第4回までの取組内容及び今後の進め方を説明し、参加者と共有した。また、地区全体の将来について意見交換する上で、20年後に下丸子周辺で想定される出来事や事象も共有した。

（2）ワークショップ

- ・「地区全体の将来の姿を考えよう！」をテーマに、3つのグループに分かれて以下の内容について意見交換を行った。

テーマ	地区全体の将来の姿を考えよう！
内容	① 地区全体の将来の姿 ② 特定の視点に対する意見交換 1) モビリティのあり方（移動性） 2) インキュベーション機能（創業支援・製品開発） 3) 歩行者中心の都市構造 4) 駅前（駅まち空間）に必要な公共公益機能

【Aグループ】

①地区全体の将来の姿のキーワード

- ・商店の賑わいがありつつ、緑や公園、広場等のいこいの空間のある居心地の良いまち
- ・職人技術の継承、子ども達がものづくりを体験できる場等のものづくりの技術・文化を活かしたまちづくり
- ・たまちゃんバスの有効活用、駅改札のバリアフリー化、防災シェルターの設置等

②視点1：モビリティのあり方（移動性）

- ・【公共交通】たまちゃんバスを上手く活用できていないため、時間帯によってマンション周辺と駅を繋ぐなどバスルートを変更（池上線との接続等）、手を挙げたらどこでも乗り降りできる等の新しいシステムの導入など、利用のしやすい公共交通環境の構築が必要

②視点2：インキュベーション機能（創業支援・製品開発）

- ・ものづくりの技術や文化を活かすため、駅に近いところにもものづくりとの交流やマッチングできる場が必要（ものづくり体験教室などに「くりらぼ多摩川」を有効活用）

②視点3：歩行者中心の都市構造

- ・企業の方々に商店街を活用してもらう工夫や安全に移動できる空間の創出が必要

【B グループ】

①地区全体の将来の姿のキーワード

- ・防災の備えがなされている安心・安全なまち
- ・子どもが多く、駅周辺に賑わいがあるまち
- ・失敗を恐れずチャレンジできる、チャレンジしたくなるまち
- ・まちの歴史やものづくり文化など、全ての世代で学びのあるまち
- ・多摩川の河川敷や下丸子公園など水辺やアクティビティを楽しめるまち
- ・子育てしやすく、駅周辺で一通りの施設が揃う暮らしやすいまち
- ・歴史や自然、雑多な雰囲気など、下丸子らしさを感じられるまち
- ・古き良き東京の残る、ふるさとになるまち

②視点1：モビリティのあり方（移動性）

- ・【公共交通】 たまちゃんバスを活かし、使いやすい公共交通の確保
- ・【自動車】 居住者の車の利便性の確保／車の自動運転化に対応したまち
- ・【自転車】 自転車は必要だが、現在は走行スペースが狭く安全性に課題
- ・【その他】 舟での移動／道路のタイムシェアリング

②視点2：インキュベーション機能（創業支援・製品開発）

- ・人とモノが出会いアイデアが生まれる、スタートアップ支援ができる場所の整備

②視点3：歩行者中心の都市構造

- ・人と自動車が調和したまち

②視点4：駅前（駅まち空間）に必要な公共公益機能

- ・交流ができる広場空間や防災倉庫、図書館、アウトドア拠点、ホール、商業等の複合機能
- ・小型モビリティを駐車できるスペース

【C グループ】

①地区全体の将来の姿のキーワード

- ・歴史・文化やものづくり、自然（多摩川やケヤキ並木、桜）、アクティビティ（多摩川のサイクリングロードや下丸子公園）等の下丸子の資源を活かしたまち
- ・誰にでも優しく、人と人とが交流する歩きやすく、居心地が良いまち
- ・活気のある商店街など、にぎわいのあるまち

②視点1：モビリティのあり方（移動性）

- ・【徒歩】 子供を連れていても安心な歩きやすい空間づくり
- ・【公共交通】 たまちゃんバスの利便性を高め、使いやすい公共交通に
- ・【自動車】 車と人の動線を分けるなどにより、お互いに安全な通行環境の形成
- ・【自転車】 駐輪場の充実／多摩川のサイクリストをまちに引き込む仕組み

②視点2：インキュベーション機能（創業支援・製品開発）

- ・ものづくりマップの作成や交流できる機会の創出など住民とのコミュニケーションの活性化
- ・町工場の技術とのマッチングにより新たな技術や価値が生み出されるような、誰でも挑戦できる場の創出

②視点3：歩行者中心の都市構造

- ・車が通る道には歩道を整備し、安全に歩ける環境整備を
- ・休憩施設（ベンチ等）や公園、広場等の機能も含めた検討が必要
- ・新しいモビリティにも対応したまち
- ・現況の道路ネットワークが生み出す限界性を活かす

②視点4：駅前（駅まち空間）に必要な公共公益機能

- ・図書館や大きなホールなど人が集まる機能
- ・公園や広場などに人が集え、イベントを行うことができる空間
- ・トイレ
- ・法律事務所（下丸子にはない）

(4) 講評

- ・多様な方々が集まっていたが、数多くの視点で良い議論ができていた。例えば、防災の視点についても重要だとは認識していたものの、詳しく議論はしてこなかったため、今後しっかりと議論を進めて行くことが重要であることを再認識できた。
- ・小学生の学びという観点から、水辺の活かし方についても考えていく必要がある。
- ・北側の人たちを巻き込んで一緒に下丸子を盛り上げていけるようになると良い。
- ・ウォークブルの話が出ていたが、下丸子の人たちは徒歩で移動する方が多く、他の都市と比べてアドバンテージがあると思っているが、基盤としては使いやすい空間かと言うと必ずしもそうではない部分がある。
- ・かつては子どもたちから見れば町工場で働いている人たちはヒーローに見えたが、今は安全面などの問題もあり町工場を気軽に見ることができなくなってしまったため、駅前の立地を活かして職人さんの活動が見える仕組みを考えてみては良いのではないか。
- ・多摩川のサイクリングやランニングコースとしてのポテンシャルに関する話も聞いてみたい。

■勉強会の様子

